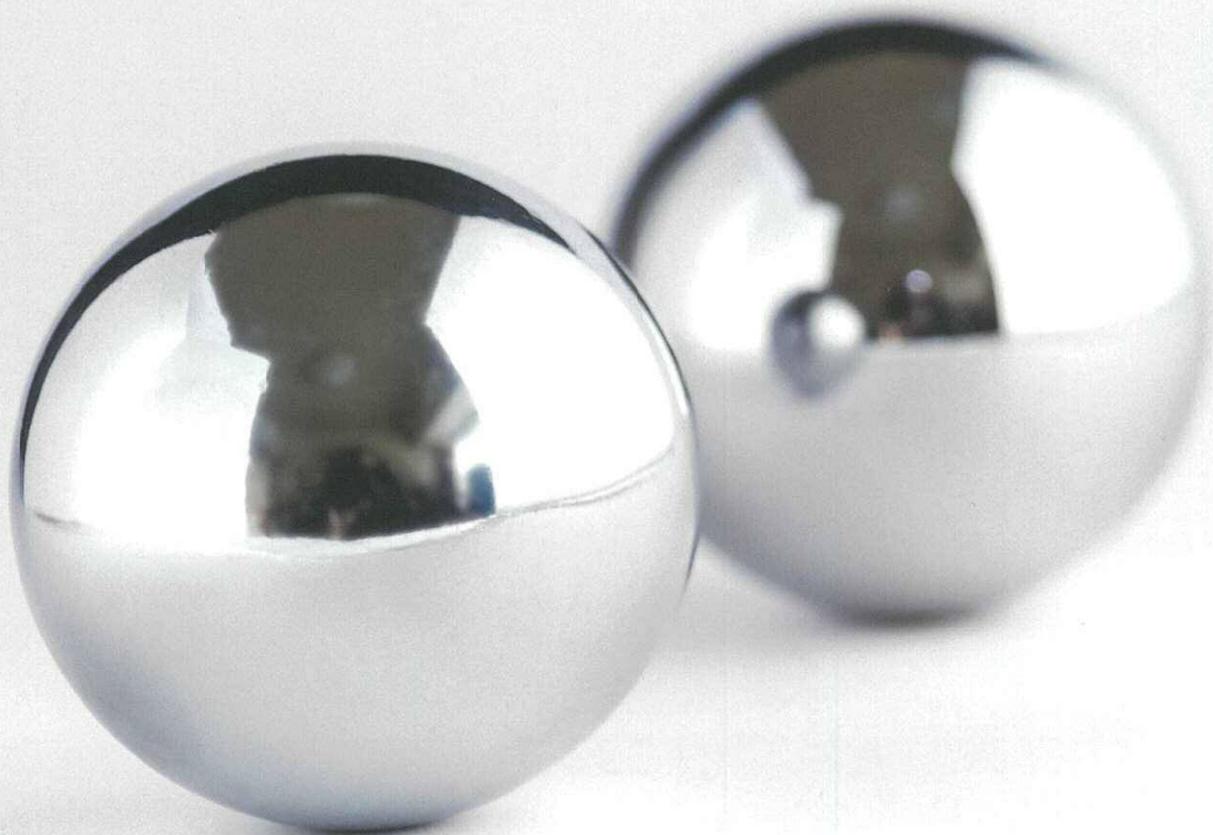


特集1

パチンコ産業

「日本型IR」「規則改正」を迎えて



特集2

「変わる」ホテル開発

広がるチャンス

歴史的建造物を再生し 日本文化を次世代に伝える取組み

旧クルペ邸 セントジョージジャパン/平安神宮会館

バリューマネジメント株式会社は今年1月より、神戸市の北野異人館街「旧クルペ邸 セントジョージジャパン」と、京都市の「平安神宮会館」の運営を開始した。歴史を重ねた施設や文化財の往時のコンセプトを再現しながらも、現代のユーザーにも訴求できるハード&ソフトリノベーションを行なう同社の最新事例を紹介する。

ソーシャル・ウェディング・ジャーナリスト 堂上昌幸

3つの視座から 運営する物件を選択

ウェディング業界にはいま、単に素晴らしい結婚式を実施するだけでなく、地域経済を活性化したり文化を次の世代に伝えたりする役割まで担おうという企業も現われている。その代表的な企業がバリューマネジメント(株)だ。代表取締役の他力野淳氏は長崎出身で、原爆投下の慰霊祭が行なわれる8月9日生まれ。育った兵庫県神戸市では1995年の阪神淡路大震災も経験したこと、先人がつくった歴史的・文化的な施設を次世代につなぐことの大切さを理解し、企業ミッションにも掲げている。

同社が手がける運営施設においては、社会的価値、文化的価値、歴史的価値の3つの視座から選択してハード&ソフトリノベーションを実施。その歴史的建造物や文化財などの物件を、それらが最も輝いていた時代の魅力と価値を再現しながら、現代のニーズともマッチングさせることを目的としている。

他力野氏の思い入れの強い神戸市ではこれまで、県の文化財にも指定された、神戸の西洋建築を代表する施設「神戸迎賓館 旧西尾邸」(須磨区)をはじめ、北野に居留した外国人のために建てられた「北野異人館 旧レイン邸」(中央区)など



北野異人館街の名所の1つでもある「旧クルペ邸 セントジョージジャパン」の外観

の運営を行なってきた。

今回運営を開始した「旧クルペ邸 セントジョージジャパン」(中央区)も、そうした実績が評価されたようだ。築年数が100年近い同施設はもともとレストランとして運営しており、婚礼も行なっていた。「いいものはそのまま残そう」という同社のコンセプトにより、ほとんどハード面には手を入れず、ただSNS全盛のいまの時代性を鑑みて、空間コーディネートに新たな工夫



ダイニングはインテリアのアンティークをいまのユーザー層にもアピールするようコーディネート



婚礼メニューで提供する、神戸が地元の総料理長・石井悠之氏が監修する正統派フレンチ



チャペルはガーデンを望む開放的な空間

構えた。

歴史ある神社会館運営 波及効果は大

平安神宮会館は、1895年(明治28年)に創建された平安神宮の付属会館で、1903(明治36)年から結婚式を挙行しており、現在の神前式の先がけともいえる施設だ。

昨年末に神宮の敷地内にオープンした文化商業施設「京都・時代祭館 十二十二

(トニトニ)」は、インパウンドの観光客も多く詰めかける人気スポットとなっている。今後も国内だけでなく外国人観光客が数多く訪れることだろう。

同社は、平安神宮での挙式を含む婚礼の総合窓口として、運営面では主に同会館での披露宴を担当する。平安神宮という、和婚を検討するカップルに刺さるブランドに加え、国の名勝指定を受ける約1万坪の日本庭園「神苑」を望む披露宴会場も有することから、こちらも高稼働の施設となることが予想される。

「披露宴会場についてはオペレーションやコーディネートなどソフトの面を一新し、またSNS発信など集客でもこれまで以上に情報発信を図っていきます」(同社)。より魅力的な空間となるよう現在はリノベーション案についても策定中とのこと。

京都市内にはほかにも同社が運営する「FUNATSURU KYOTO KAMO GAWA RESORT」や「AKAGANE RESORT KYOTO HIGASHIYAMA」があるため、平安神宮での挙式後、この二つの施設での披露宴というプランも提案できるのが強みだ。

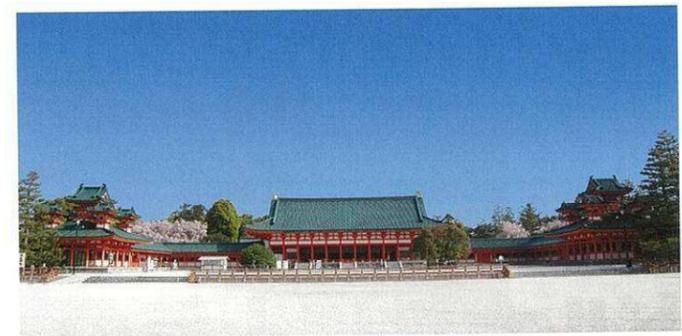
同社は、旧クルペ邸や平安神宮会館といった歴史ある施設運営を任せられるまでに実績を積み上げてきた。

神社に付属する会館は全国に多々あるが、情報発信や婚礼オペレーションなどにおいてまだまだ積極的に変化していないのが現状だ。そのようななかで、同社が全国的な知名度をもつ平安神宮会館の運営を開始したというニュースは、会館関係者にとってもインパクトをもって受け止められるだろう。

また、旧クルペ邸のような歴史的建造物を十分に活用できていないケースも多い。今回紹介した神戸と京都における同社の運営開始は、そうした意味からも大いに注目を集めているようだ。

堂上昌幸 (どうじょう まさゆき)

1986年より婚礼雑誌の記者として活躍。現在はソーシャルな活動とともに各誌に記事を執筆。近著は「新・ウエディングプランナーという仕事」(2017年3月発売)



日本の美しき結婚式スタイルを実現する「平安神宮」本殿



挙式前に巖かに朱塗りの回廊を渡る新郎新婦と参列者



名勝指定庭園「神苑」を望む披露宴会場「迎賓殿」。着席で60人まで使用可能だ